

多様なニーズに対応する予測情報について

議論の前に・・・

➤ 大地震のとき、高層ビルでは何が起きるのか？

大地震に伴って発生する長周期地震動は、高層ビル等を大きく揺らす。その時、室内での家具類の転倒や移動が発生するほか、どんな被害が発生するのか。東北地方太平洋沖地震や熊本地震でどんなことが起きたのか。

長周期地震動の予測情報のニーズ

➤ タイミング、目的、利用者・・・求められる情報ニーズとは？

東北地方太平洋沖地震の経験や南海トラフ巨大地震が発生した際の長周期地震動の想定を踏まえて、様々な観点から予測情報に求められるニーズを検討する必要がある。

- タイミング（事前対策、揺れる直前・・・）ごとのニーズ
- 目的（設備管理、安全確保・・・）ごとのニーズ
- 利用者（ビル管理者、テナント・・・）ごとのニーズ
- これまでに顕在化したニーズ
- 潜在的なニーズ

長周期地震動の予測技術

➤ どのような現象を予測するのか？

高層ビルの中にいる人の感じる揺れ、エレベーターなど設備への影響、高所作業等への影響など予測情報が活用可能な現象は様々ある。

様々な現象ごとの予測として、どのような指標（絶対加速度応答スペクトル、相対速度応答スペクトル・・・）が適切か。

➤ どのような技術が必要か？

必要となる指標を求めるにはどのような技術が必要か。

- 応答スペクトル法の活用
- これまでにある技術の見直し
- 新しい技術の検討
- 観測データを活用した予測技術

多様なニーズに対応する予測情報について～成果物のイメージ～

成果物のイメージ

➤ **どんなレベルの予測情報の検討を行うのか？**

予測情報には、大きなコストをかけるものから、比較的小さなコストでできるものまで様々なランクあり、一般的に大きなベネフィットを得ようをするとコストも大きくなると考えられる。
課題、技術、ニーズなどを踏まえてどのようなレベルの予測情報にターゲットを置くべきか。

➤ **報告書**

予測技術、利活用方法、予測情報の試行について、本WGで検討した成果（様々な予測情報の種類や特性、具体的な利活用方法、予測精度確保のための方法等）を取りまとめて報告書を作成する。
どのような形で公表すると情報の利活用が進むのか。